

テレメトリブローカーでMaydayバンドルを生成

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[確認](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、Cisco Telemetry Broker(CTB)ManagerノードおよびBrokerノードでmaydayバンドルを生成する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- 基本的なLinux管理
- 基本的なCisco Telemetry Brokerアーキテクチャ
- SSHの基本的な知識
- Maydayバンドルの生成に必要なコマンドラインインターフェイス(CLI)アクセスadminとrootして実行

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- バージョン2.0.1を実行しているCTB Managerノード。
- バージョン2.0.1を実行しているCTB Brokerノード。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

設定

バ mayday バンドルは、マネージャノードとブローカノードの両方で使用できます。現在、mayday バンドルを生成するには、いずれかのアプライアンスのCLIを使用する方法しかありません。これを行うには、

- SSH経由で目的のCTBノードに接続します。
- クレデンシadmin ャルでログインします。
- コマンドを入力します。 `sudo maydayユー root` ザパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。
root
- ユーザパスワードを入力します。

この処理が完了すると、バンドルが自動的に生成されますmayday。バンドルを生成するプロセスの一部として、いくつかの行がCLIに表示されます。次の図に、完全に生成されたバンドルの例を示します。

```
2024/01/30 21:03:20 collecting 3 days of logs from "openntpd.service"
2024/01/30 21:03:20 collecting 3 days of logs from "apparmor.service"
2024/01/30 21:03:20 collecting 3 days of logs from "sysinit.target"
2024/01/30 21:03:20 collecting 3 days of logs from "paths.target"
2024/01/30 21:03:20 Running command: "docker logs 0cb75bd818fa29671b3ad71a98c31b91ef734e4ece67b11712daf2f77488dfe9"
2024/01/30 21:03:25 Running command: "docker logs 59613cccb5fb3411896b3572c5b54003d1233dd258a96044ef31a500ceb51b05"
2024/01/30 21:03:25 Running command: "docker logs 72b4e7ac7b05b4735957d8acb98eefc2111fb3e08ff658e62cd5b94b506a10e2"
2024/01/30 21:03:27 Output saved in /tmp/mayday-ctb-H91aacgU-202401302102.238592171.tar.gz
2024/01/30 21:03:27 All done!
```

バンドル生成の出力例

確認

バ mayday バンドルはアプライアンス・ファイル・システム内の `/tmp` オルダに保存されます。そのディレクトリで使用可能なバンドルを表示するには、次のコマンドを実行します `ls -lah /tmp | grep mayday`

バンドルが生成されたら、SCPまたはSFTPを使用してファイルをローカルマシンに転送します。SFTPを使用する場合は、アプライアンスに接続するための管理者クレデンシャルを入力します。

関連情報

- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。